

# 阪神大震災から 25 年

平成 7 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分、淡路島北部を震源とするマグニチュード 7.3 の地震が発生した。この地震で神戸と洲本で震度 7 を観測したほか四日市では震度 4 を観測するなど、東北から九州にかけて広い範囲で有感となった。

この災害による人的被害は、死者 6,434 名、行方不明者 3 名、負傷者 43,792 名という深刻な被害をもたらした。地震の発生が真冬の早朝で、多く人がまだ自宅にいたため、人的被害が大きくなったのである。(消防庁調べ)

また、家屋被害は、全壊が約 10 万 5 千棟、半壊が約 14 万 4 千棟にのぼった。



朝日新聞 HP より「神戸市内の被害状況」

## 記憶、経験「風化」6割

天災は忘れた頃にやって来る  
研究者：寺田虎彦

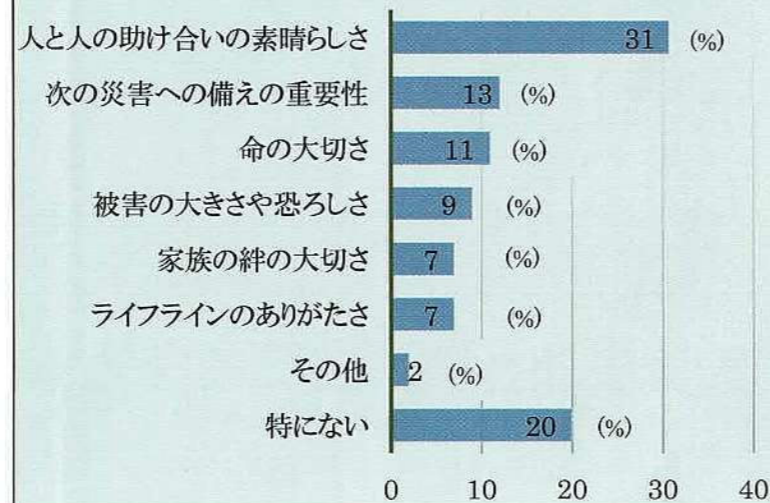
阪神大震災で被災し、神戸市内の「借り上げ復興住宅」に入居する 101 人を対象に共同通信がアンケートした結果、震災の記憶や経験が風化していると感じている人が 6 割に上ることが分かった。

災害から 25 年。時間の経過とともに教訓が忘れられるとの懸念が示され、次世代へつなげる取り組みが改めて問われそうです。

### 阪神大震災の記憶や経験の風化について



### 震災を知らない若者に伝えたいこと



「福井新聞 令和 2 年 1 月 17 日記事引用」

## 減災対策をしましたか？

阪神大震災は、死者の 8 割以上が、木造住宅などの倒壊による圧死や窒息死であった。

また、平成 30 年 6 月大阪府北部地震では、家具転倒による死亡事故がありました。

この教訓を生かすために、次の減災対策をしましたか？

### ① 我が家の建物自体をチェック・・・(耐震化)

昭和 56 年前に建てた木造住宅は、耐震性が低い可能性が高いので、「耐震診断」を受けましたか？(四日市市の無料耐震診断制度をご利用ください。)

耐震診断の結果、補強の必要性が高いと判断された住宅の対策を行いましたか？(四日市市の耐震対策助成制度をご利用ください。)

### ② 家具・家電の固定・・・(転倒等防止対策)

大きな家具や重い家電製品も、大きな揺れで倒れたり、飛び出したりしますので、動かないように固定することが最大の安全対策です。

(一人暮らし高齢者宅等家具固定事業をご利用ください。)



※ 耐震対策助成の問合せ先は、「四日市市危機管理室 TEL 059-354-8119」まで

## 避難所の食事は、一人 1 日当たりいくらかご存じですか？

災害救助法(第 5 条)の一般基準による支援は、災害直後の応急的な生活の救済を目的とする現物支給であることから、炊き出しや弁当により限られた食事が支給される。

東日本大震災では、災害救助法に基づき、国の一般基準で 1 日 1,010 円以内であるため、宮城、岩手、福島県知事が内閣総理大臣と協議し、特別基準を設けた。その金額は、**1 日当たり 1,500 円以内**と上乗せを行った。費用は、国と県が負担する。

避難所での食事内容は、3 食中 1 食は弁当を配食、残り 2 食はパンやおにぎりの所が、ほとんどであった。炊き出しは、発災後 1 週間くらい経過すると多くの避難所等で行われるようになった。また、非常時に備えて集会所に十分な備蓄をしていた避難所では、初日から温かいものを食べられていたところもあった。

※ 対象者は、避難所に収容された者や住家に被害を受け、若しくは災害により現に炊事ができない者(在宅避難者)である。



食べ物を配ります。日時 (Date)